

学校 教育 目標	自立 自ら学び(知・徳・体) 共生 互いを支えあい(徳・公) 創造 未来を創る笹中生(公開)				
学校 概要	創立 55 周年	学校長 根岸 慶	副校長 佐々木克郎	3 学期制	一般学級: 17 個別支援学級: 4
	児童生徒数: 613 人	主な関係校: 南台小学校・日下小学校・上大岡小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	笹下中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自分づくりに関する力 他者とつながる力	南台小学校 日下小学校 上大岡小学校	他者と関わりながら自分や社会の未来を創造する子ども ・年間を通して「児童生徒の誰もが主体的に学習できる授業づくり」をテーマに、体験的な学びの充実とICTの効果的な活用の充実を図り、各教科等においてテーマを意識した授業を展開する。小中合同授業研究会では、主体的に学ぶ子どもの姿をもとに協議を行い、9年間で育てる子ども像の実現に向けた授業改善を図る。 ・小学校から引き継いだ、新1年生の「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」等を全職員で共有し、継続した特別支援教育を充実を図る。

中期 取組 目標	・生徒一人ひとりの状況や思いを大切にしながら、仲間と協働し学びを深める授業づくりを行うとともに、個に応じた指導を充実し、主体的に学習に取り組む態度を育成します。 ・一人ひとりの個性を認め合い、お互いに高め合える力を育成します。 ・心身の健康を目指し、学校保健委員会のアンケートデータ、体力・運動能力調査等のデータを活用して自己の生活の振り返り、実践を通じて課題を解決する力を育成します。 ・より良い学校づくりのために、生徒の意見やアイデアを発信することで、生徒の自治能力を高めたり、地域活動に主体的に参加し、地域社会に貢献したりする力を育てます。
----------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①育成を目指す資質・能力を明確にした校内授業研や小中一貫教育推進ブロック授業研を実施する。ICT端末を効果的に活用することで、個別最適学習や協働学習に生徒が主体的に学習に取り組む授業を目指す。②年に1度生徒による授業評価を実施し、集計結果を基にしながら授業改善を行う。③「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るため、学力・学習状況調査のデータ結果を活用し、授業改善に生かす。
担当	教育課程・教務	
徳	人権教育	①教職員の人権意識を高める取組の充実を行う ②特別活動・行事・校外学習などの豊かな体験をとおり、互いの個性を尊重し、人とのつながりを大切にしたい望ましい集団作りを目指す。 ③道徳教育、人権教育の推進を図り、自他の人権を尊重しながら、誰もが安心して自分の思いを表現できる学校づくりを行う。
担当	人権・道徳・総合	
体	健康教育	①様々な種目を体験し、基本的な技能を身に付けることで運動やスポーツへの様々な関わり方について、興味や関心を高める。②ICTを活用した授業を展開し、思考・判断・表現力を高める。グループ学習などを通じて協働的な学びを推進する。③中学校給食の全員喫食に合わせ、食育の推進を図る。自分の生活や食事について考える機会を作る。
担当	保健安全指導部・保健	
公開	ESDの推進	①教科等の学習内容とSDGs17の目標とのつながりを示し、ICTを活用しながら実社会の課題を自分のこととして捉えることができるようにする。②自分たちを取り合う課題をSDGsの視点で見直し、生徒が主体となって身近な課題や社会課題の解決に向けた活動になるようにするとともに、家庭・地域に発信する。③生徒自身が課題を探究し、継続的な取組につなげられるよう、学年や他教科との連携を深め、一部の生徒の参加に偏らないよう、誰もが関わりやすい活動デザインを工夫する。これらを踏まえ、「主体的な学びの深化」と「循環的な活動作り」をめざしたい。
担当	学習指導部・特活指導部	
いじめへの対応		①子ども会議等において生徒が話し合う機会を年間計画に設定し、生徒自らが考える未然防止への取組を実施する。②週1回定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで再発防止に努める。③教育相談やアンケート、YPアセスメントを活用し、毎日の健康観察(スタナビの活用)や年2回の生徒アンケート等により些細な変化を見逃さない体制づくりをする。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		①協働と心理的安全性の維持: 助け合い・相談しやすい職場づくりを継続し、学年横断の協働を推進②ICT標準化と効率化: Googleフォーム等の最低基準設定、リアルタイム共有、紙業務削減を強化③学びの質と働き方改革: 探究・キャリア教育の継続、会議効率化、成果の見える化とDX推進
担当	教務部・事務部・衛生委員会	
特別支援教育		①保護者と合意形成を図りながら、一人ひとりの教育的ニーズに基づいた個別の教育支援計画、指導計画を作成し、生徒を支援する。②校内ハートフルを有効活用し、多様なニーズにあった適切な支援できるよう校内体制を整える。③外部機関と連携し、支援方法等を学び、教員の特別支援教育に関する、資質能力を高める。
担当	特別支援・個別支援	
生徒指導		①学校が誰にとっても安全・安心な居場所になるために学級活動、学校行事などを通じて互いを尊重し合う学級風土を醸成する。②YPアセスメント活用のための研修を行い、生徒指導・支援に関する教員の資質能力を高める。③生徒の意見を取り入れ、学校のきまりについて自分ごととして主体的に考えることで一人ひとりの規範意識を醸成する。
担当	生徒指導部	
自分づくり仲間づくり教育		校外学習や行事、日々の学級活動を通して主体的に考え、的確に判断する力を養わせるとともに、互いの個性を尊重し、人とのつながりを大切にしたい望ましい集団づくりができるよう課題設定を明確にする。②自分らしさを発揮して、自己実現を図ろうとする能力を養うためにICTを活用しながら、夢プログラムやSDGs関連プログラムを実施する。
担当	特活指導部・総合	
地域学校協働活動		①地域学校協働本部との連携をさらに強め、放課後スタディの充実や地域人材による学習支援を取り入れ、生徒に多様な学びの機会を提供する。②土曜参観日の地区懇談会では、生徒による発表や意見交換の場を設け、地域との双方向の交流を深め、地域貢献意識の育成につなげる。
担当	小中一貫・生徒会など	